



後輩へのメッセージ

(奨学生に贈る言葉)

2019年卒業生

吉用 光汰 (東京大学 法学部第三類 政治コース)

私はこの数年間、年に一度の財団交流会の席で数多くの後輩の皆様の話聞いてきました。交流会では毎年、奨学生一人一人が壇上で自分の近況等について述べる時間が設けられていますが、そこで語られていた事は、夫々の専攻や力を入れている事、日常の中で得た知見等について確かに向き合っている事が伺え、その思いや考えに感銘を受けたものです。このように交流会の場で直にお話しを聞かせて下さった後輩の皆様にはまずはお礼申し上げます。

次に、私の学部卒業後に戸田育英財団の奨学生となる方々にも、申しあげておきたいと思います。私が、交流会の場で皆様にお会いすることはございませんでしたが、大学に入り財団の奨学生となられた奨学生は、きっと自分の生や公的のことについての考えや、それらについて考え問い続けようとする姿勢を既にお持ちであることと思います。

皆様がそれらを保ち続け、各々の分を満足して尽くせるような日々を送れることを心より祈っております。

垣迫 淳 (聖マリアンナ医科大学 医学部)

戸田育英財団の奨学金は給付されるので将来の返済義務がありません。

私は、一度社会人として仕事をしてから再び大学生に戻ったので、お金と時間の大切さについては周りの人よりは、少し理解が深い方だと思っております。

このような奨学金を頂けることへの感謝を忘れず、奨学金を有意義に活かし今という時間を大切に使って下さい。

そして社会に出た後は、傲慢になることなく人として道を踏み外すことなく、感謝の気持ちを忘れない社会の貢献する人間として頑張ってください。

村田 寛菜 (北海道大学 農学部 畜産科学科)

私は、戸田育英財団の奨学金を頂いて、海外ボランティアやアルティメットというスポーツのサークル活動で世界活動に参加することができました。

またアメリカに交換留学をしに行く予定です。奨学金を頂いていなければ、このような貴重な経験をする事は出来ませんでした。

奨学金をどのように使うかは、その人次第ですが、同じお金でも使い方によってその会は変化します。ぜひ自分の成長のために使っていただけたらと思います。

そして、支えてくれる全ての人に感謝を忘れず、素敵な学生生活を送ってください。

竹井 義貴(北海道大学 理学部地球惑星科学科)

大学時代の4年間、自分のやりたいことを精一杯取り組んでみて下さい。様々なことに、自由に取り組める時間は、人生において今しかないと思います。皆さんには、多くのことにチャレンジすることの出来る機会と環境があります。自分のペースで、自分らしく頑張ってください。

浅井 まどか(青山学院大学 文学部英米文学科)

迷えばまずやってみることが大事だと思います。何もせず、時間だけが過ぎ後に後悔するよりはやってみて、失敗する方が何倍も価値があります。

なぜならば、失敗を重ねることで人間は学び課題を修正し、そのプロセスを続けることで初めて成功につながるからです。

考えることは、とても大事ですがそれだけでは結果になりません。迷えばまず挑戦してみてください。「失敗は成功の元」です。失敗を恐れずどんどん挑戦していきましょう。

平田 航 (慶應義塾大学 商学部)

金銭的に余裕が無いと感じることがあると思いますが、アルバイトやインターンで稼いだ分も合わせて思い残すことが無いような学生生活を送ってください。

また、私は目的意識無く過ごしていた時期があったので皆さんは時間があるからといって、なんとなく今を過ごさないよう気を付けて下さい。

皆さんの更なる、ご活躍を祈っております。

射場 千尋 (東海大学 理学部 物理学科)

「学生」でいられる時間を大切にしてください。そして、何事にも臆せず、ぜひ色々な事にチャレンジしてみたいです。時間に余裕があるからこそできることが沢山あると思います。

また、大学、戸田育英財団で出会った友人とのつながりをぜひ大切にしてください。

高野 望 (東海大学 工学部・動力機械工学科)

私は、大学で出来ることは2つあると思います。

1つ目は、専門知識の習得です。

大学は自分の市場価値を上げることが可能です。需要のある専門知識を習得することで、自らの可能性を広げ、自分が入りたい就職先へ入ることが可能であると思います。

まず、自分が何になりたいのか考えることは必要だと思います。

2つ目は、人と関わることです。

大学には、他県もしくは海外から多くの人 comes。サークル、クラブ、委員会などに入り、他人と積極的に関わることで“人”を学べる事が出来ると思います。

“人”を学ぶことは人と関わることでしか学べないと私は感じます。

荒井 龍一（東京大学 教養学部 総合社会科学）

大学生活は長いようで、あっという間に過ぎるので色々な事を楽しめるとよいと思います。

福沢 孝洋（東京大学 経済学部 経営学科）

後輩の方々には、戸田育英財団を更に盛り上げていただきたいと思います。私自身、この奨学生の同輩から友人を作ることができました。

皆様にも、友人を作り、その輪を広げ全奨学生がタテ、ヨコで結びつくような交流をしていただけたら嬉しいです。

中西 正寛（東京大学 工学部 計数工学科）

近年、SNS 等を通して人々を、人々の多くが今どのように考えていて、どうすれば生きやすいのか、ということを知ることが出来る時代だと思います。こういった多数派の意見に自分を埋没させることは簡単ですが、多数派による同調圧力で自分を見失ってしまうこともあると思います。

こういった状況に対して、諦めるのではなく、自分なりに立ち向かっていくことが大切です。その上で、自分を批判してくれるような人々のことを大切にしてください。

人間は、本来序列などないはずで、上だとか、下だとかは形式的なものでしかないと思います。皆さんが自分のやりたいことに向かって気兼ねなく行動できることを願っています。

片山 柊（東京音楽大学 音楽学部）

自分のやりたい事を見つけ没頭できる環境に身を置けるのは、親御さんを含め多くの方のサポートの下、成り立っているからであり、とても恵まれています。つねに感謝の気持ちを決して忘れず謙虚な姿勢をもって続けてもらいたいと思います。

加藤 美門（東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科）

大学に入学した頃は、4年間長いなと思っていましたが、そんなことはありませんでした。4年間はあっという間でした。大学生活は、長いようでとても短いです。だから、1日1日を大切にしてください。大学生の頃にしかできないことを、たくさん経験してください。

大学の講義をしっかり受けて課題は適当に済ませず、全力で取り組む。

研究もとことん突き詰める。1~2ヶ月の長期休暇は、社会に出たらなかなか難しいと思うので、有効に活用すること。アルバイト三昧だともったいないと思います。

私は、長期休暇はほとんど農業実習をしていました。普段はなかなかできないことを経験することで、新しい刺激を受け、視野が広がっていくと思います。

私は0号室さんの本のタイトルである「勇気は一瞬、後悔は一生」という言葉が好きです。「これやってみよう！」と思ったこと、今やらないと後悔は一生残ります。奨学生のみなさんが、素晴らしい学生生活を送れることを願っています。

松浦 宏貴 (東洋大学 法学部)

大学の中でも外でも構いません、信頼できる友人を見つけましょう。
大学生活という可能性が無限に開かれた時期にしか、それはできません。

上 未奈人 (明治大学 政治経済学部政治学科)

私は学生時代から多くの失敗をし、人からの信用を失ってきました。そんな私が失敗から学んだことを伝えさせていただけたらと思います。

他者とコミュニケーションが必要になってくると思います。それは他者から見た自分も一緒です。自分が相手を信用できる様になって初めて相手からも信用されることが出来ます。ちょっとしたミスで崩れてしまうのが信用なのです。相手との約束や、人として当たり前といわれることを怠ると、信用は失われ、再度形成するには、最初の倍以上の苦勞をします。もしかすると、もう二度と信用は得られないかもしれません。

そのことを常に意識しながら人と接することが人から信用される人になるための第一歩だと、私は失敗を通して学びました。皆さん、僕のような失敗は是非しないで下さい。

柴田 みず紀 (立教大学 法学部)

高校まで勉強しか頭になかった私、だからこそその事ではありますが、人付き合いは、目茶目茶大事です。特定の狭い人しか付き合いせず、勉強に勤しんでいた私は、就活の面接は結構苦勞したし、四月入社する会社でも、人付き合い頑張らなきゃと意気込むほどです。(泣)

それからよく言われる事かとは思いますが、大学生のうちにもっと色々な事を吸収して欲しい、高校生ではできないこと、社会人になったら時間が無くてできなくなること、沢山あると思います。経験豊かな、素敵な大人になって下さい。

長澤 美知 (早稲田大学 創造理工学部 建築学科)

4年前、大学入試が決まった時は、憧れの学校に通える嬉しさと共に、何事にも時間のかかる私が、課題の量と名を轟かせる建築学科でやっていけるのか、恐ろしさでいっぱいだったことを覚えてます。

そのような中でスタートでしたが、戸田育英財団奨学金奨学生に採用して頂き、ご支援によって時間の余裕ができ大変充実した大学生活を送ることができました。

課題の海に飲み込まれず余分な授業をとったり、友人の実験の手伝いをしたり遠くの建築を見に行ったりと、必須科目だけでは分からないことも、存分に吸収いたしました。2月にはアメリカに行き、著名な近代建築家が設計した美術館を訪れました。そこは、中央の吹き抜けを囲うように展示スペースがらせん状に続いており、奥に行きたい気持ちが、足をどんどん進ませる造りになっています。

この1年間は卒業論文で生活に基づいて出来ていった伝統的住宅に触れることが多かったので、久しぶりに設計者の明確な意図を感じる建築の中に入り懐かしい高揚感が湧いてきました。大学生は、時間があれば大体のものに手を出すことが出来るはずです。

必要不可欠でないものにも、沢山経験してぜひ楽しい大学生活を過ごして下さい。

森 唯人（早稲田大学 創造理工学部 建築学科）

奨学金をいただいていることが勉強に励む時間が多少増えると思います。その時間をどう管理していくかが非常に重要だと思います。

有効に使えるか、無駄にってしまうかで、大学生活の充実度は大きく変わってくるだろうと今日は、実感しています。勉強に励むことが、何か良い成果がでてくるかもしれません。その成果を戸田育英財団にご報告するだけでも大きな恩返しになると思うので、良い成果を伝えられるように頑張ろうという気持ちで何事も取り組んで下さい。

大学生にしか出来ないことを、した方がいいとかよくいわれると思います。

それは、遊んだり、旅行に行ったりという事もあると思いますが、勉強においても大学生にしか出来ない事も沢山あると思います。それは何なのか、自分でしっかり考えて、探してみてください。大きく成長できると思います。応援しております。

岡本 祐樹（同志社大学 政策学部）

学生生活の中で得られる貴重な経験を、これからの人生で活かせるよう日々を大切に過ごして下さい。

藤元 結音子（同志社大学 法学部政治学科）

この度、大学を早期卒業し、大学院へ進学することになりました、藤元結音子です。私が 3 年間の大学生活を終えて率直に感じた事をお伝えしたいと思います。

大学 1,2 年生のうちに様々なことにチャレンジしてみてください。その中で沢山の人と出会い、多様な価値観に触れることで自分の中の価値判断の軸が定まったり、将来の展望が開けたりという事があります。

3 年生の春になると就職活動が本格化し、予想以上に時間が無くなります。それまでに「大学生活で私はこれをやりきったのだ、頑張れたのだと思える何か」と出会っておく必要があるのです。やりたい事の軸が定まっているとスムーズに動くことが出来ます。

確かに、やりたい事の実現には困難がつきものです。

しかし、やりたいという意志を明確にし、扉を叩いてみると不思議と支えてくださる周りの方とご縁があり、より夢に一步近づくことが出来るのもまた事実です。失敗することを恐れずに、扉を叩いてみて下さい。

小宮山 慧南（立命館大学 薬学部創薬科学科）

奨学生の皆さん、大学(または学生)生活は長いようでいて、本当に短いです。時間がある今、この時こそ、自分の学びたい事や伸ばしたい事を全力でやりきってください。

私自身、戸田育英財団の奨学金をいただいたお蔭で、自分の研究生生活に没頭することができました。財団の皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

奨学生であることに誇りを持ちつつ、驕らずに、謙虚に、多くの方に感謝して、これからの学生生活をより豊かで、実りのあるものにしていただけたらと思います。

永井 夏実（筑波大学 人文・文化学群日本文化学類）

皆さんは、夢や目標はありますか？大学生活は、夢をじっくり考えたり、実現するためにぴったりの時期だと思います。私は、在学中に海外の大学で学ぶ機会を得、語学力を向上させたいと考えていました。戸田育英財団のご支援を受けてカナダの大学で 3 週間短期留学をすることが出来ました。

大自然や現地の人と暖かい交流を経験し、帰国後も続く人間関係と新たな物の見方という財産を得られました。大学生活は長いようであっという間に過ぎていきます。戸田育英財団のご支援という心強い後押しのもと、まずは一歩行動して悔いのないよう過ごして下さい。